

学習支援のために 「図書館」は何ができるのか

～学生を見る、声を聞く～

千葉大学附属図書館 庄司 三千子

2011年4月

研究開発組織として

アカデミック・リンク・センターを設置

Writing center
Social learning

アクティブ・
ラーニング・
スペース

コンテンツ

人的サポート

「コンテンツ」を活用する新しい学習環境の構築

コンテンツ・ラボ

ティーチング・
ハブ

Pathfinder
Licensing
Digital course pack

授業のコンテンツ化

Learning management
system (LMS)
Human resource
development

2012年3月

附属図書館本館（西千葉キャンパス）を
改修、増築し図書館付設型ラーニング
コモンズを整備

千葉大学附属図書館, アカデミック・リンク・センターの建物構成

書庫・静寂な閲覧席

書庫的空間

研究開発, コンテンツ・ラボ, ティーチング・ハブ

学生支援センター
(厚生施設)

図書館新館
(愛称: L棟)

図書館旧館
(愛称: K棟)

東棟(増築)
(愛称: I棟)

書店

南棟(増築)
(愛称: N棟)

アクティブ・ラーニング・スペース

かたらいの森

☒ 床板 600 ² グレーティング敷付 ☒ 下地鉄板 600 ² ☒ 床板厚さ 100 ² ☒ 500 ² グレーティング ☒ 基礎 100 ² 厚 500 ² x 1,000 ² x 1,000 ²	☒ 縦引仕舞 ☒ プレース位置を示す ☒ 階段ドレンを示す ☒ 配: 100 ² ☒ 丸欄を示す	千葉大学施設課 建築部 千葉大学 (西千葉) 附属図書館新館その他工事 工務部 建築課 設計課 設計者 建築設計事務所 設計者 建築設計事務所	株式会社 佐藤総合計画 代表取締役 佐藤 隆夫 取締役 佐藤 隆夫 取締役 佐藤 隆夫	0950-010 千葉大学 (西千葉) アカデミック・リンク・新館その他工事設計図書 1層平面図 1/200 28
---	---	---	--	--

情報利用行動定点観測プロジェクト

- 学生の日常の学習行動、
情報利用行動
- 新しい学習空間の利用状況

調査、分析

新しい学習環境の整備や
サービスの刷新が、
学生にどのような
影響や変化を与えたのか？

A) 学習・情報利用行動はどう変化したか？

- ① 千葉大学学習状況・情報利用環境調査
- ② FGIによる学習・情報利用行動実態調査

B) 新図書館・学習空間をどう利用しているか？

- ③ カメラ画像によるALS定点観測調査
- ④ フォト・ボイスによる学習状況調査
- ⑤ ALSにおける図書利用状況調査

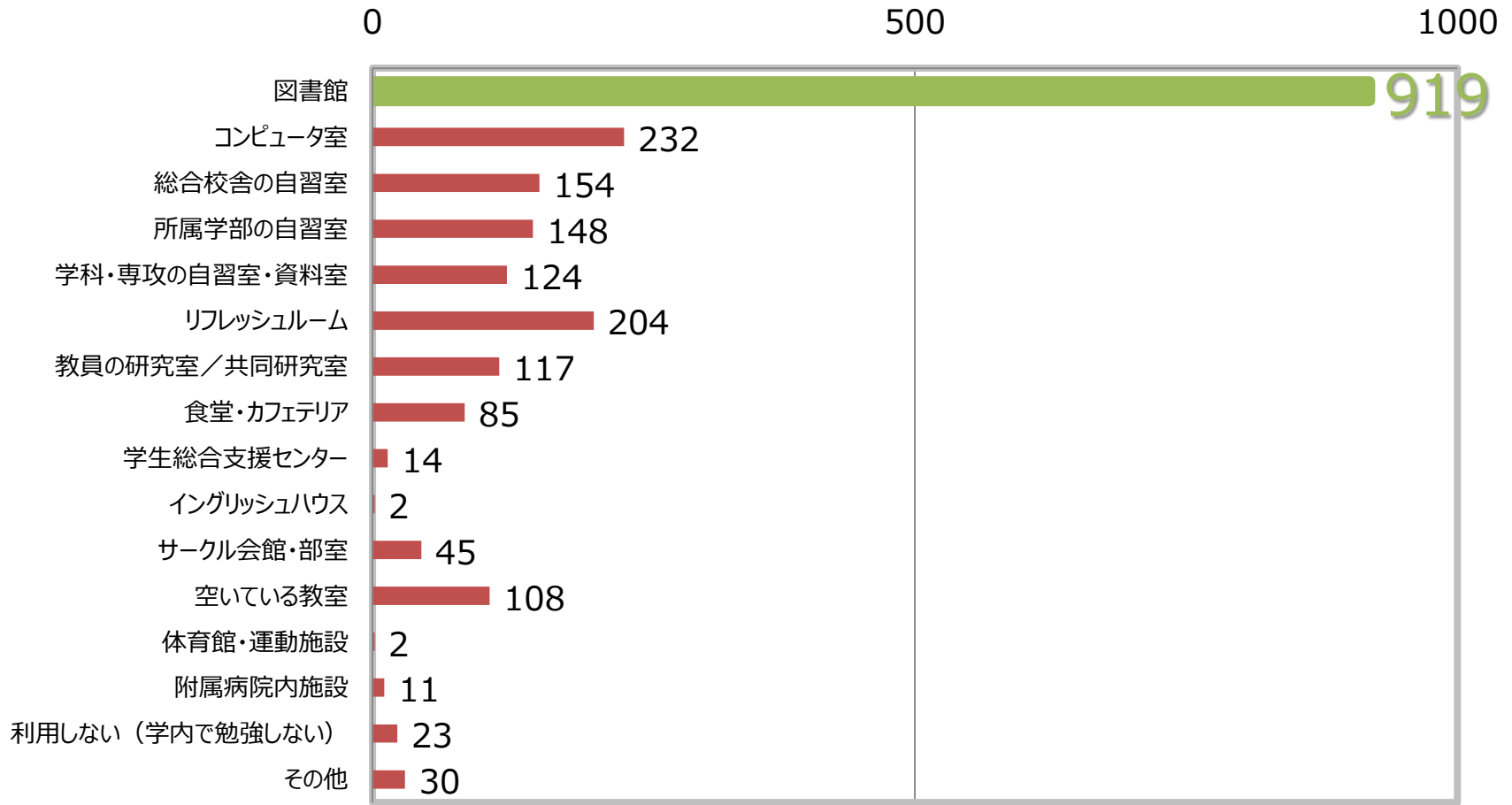
①千葉大学学習状況・情報利用環境調査

- 目的：学習や情報利用の状況を毎年調査
- 対象：全学の学部学生
- 方法：ウェブ質問紙

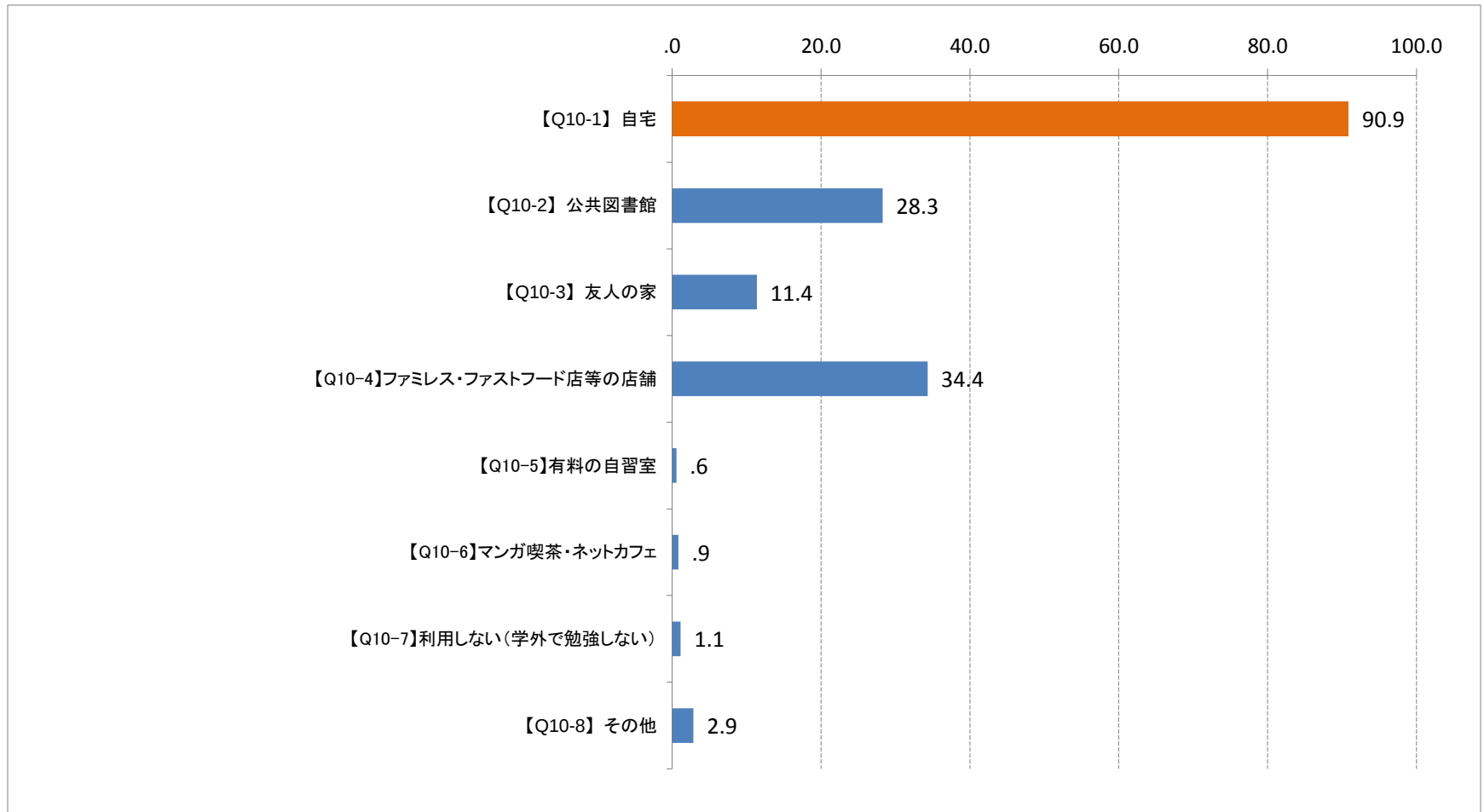


- 「行動の傾向」を示す、客観的なデータ →【量】
- 図書館利用者に限らず「千葉大生全体」の傾向が分かる

<大学内での勉強に主に利用する施設は？(複数回答)>



＜大学外での勉強に主に利用する施設は？（複数回答）＞



②フォーカス・グループ・インタビューによる 学習・情報利用行動実態調査

- **目的:**新しく整備した学習空間をどう思うか？
学習や情報利用行動がどう変化したと認識しているかを探る
- **対象:**本館利用者(公募)
- **方法:**フォーカス・グループ・インタビュー
(5グループ、1.5～2時間、22名)
↓
↓
↓
- 学生(個人)の認識 →【質】
- 新しい空間をどう「思い」どう「使い」どんな変化がおきたのかが分かる

③カメラ画像による

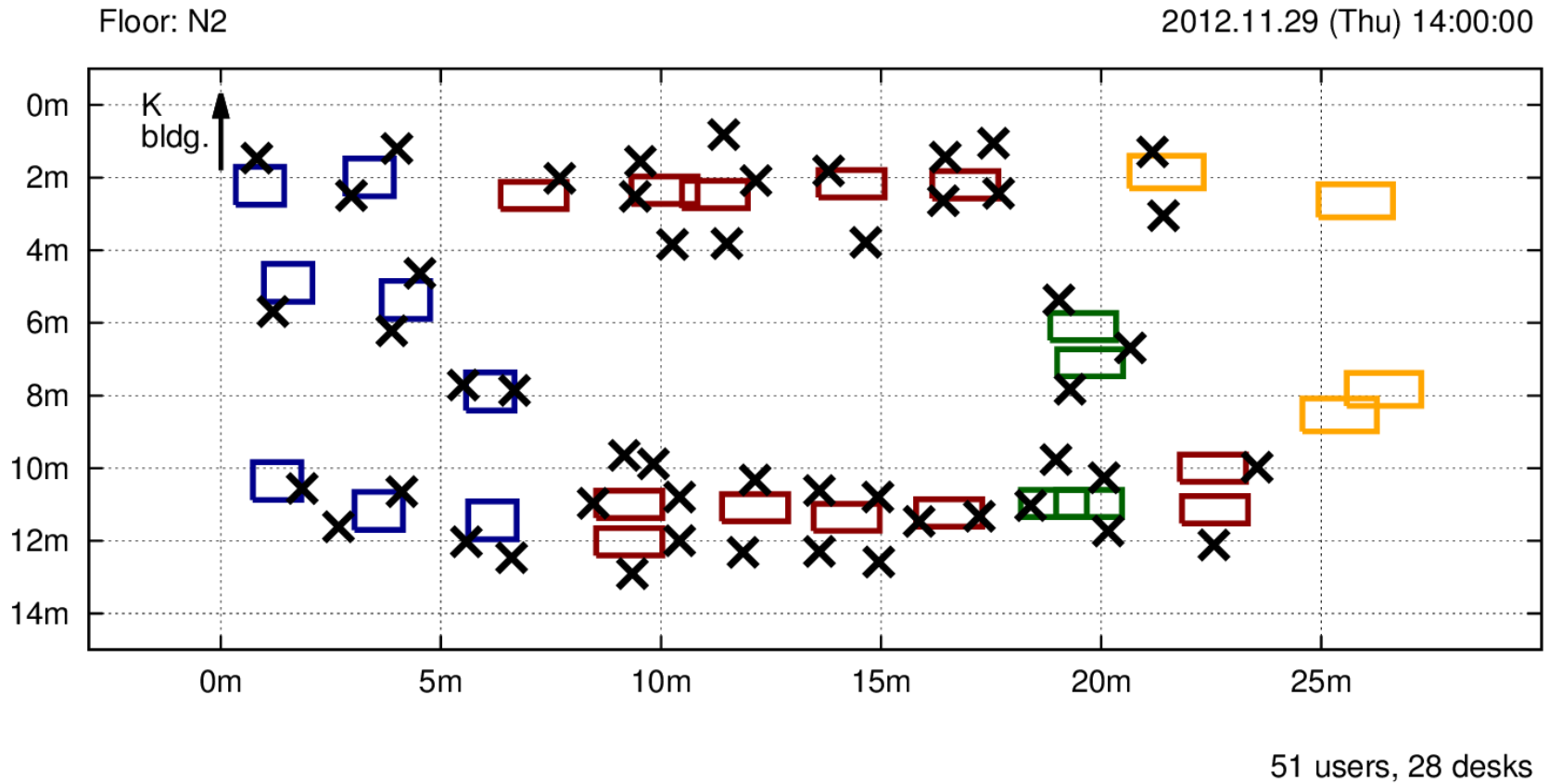
アクティブ・ラーニング・スペース定点観測調査

- **目的:**「新しい学習空間」(会話可能な2ー4階までのラーニングコモンズ)の利用状況を探る
- **対象:**本館への来館者
- **方法:**カメラの静止画像より測定



- スペースの利用動向を示す、客観的なデータ →【量】
- 「机・椅子の移動状況」などが分かる（個人の動向は不明）

プロットの例



④フォトボイス(学生撮影写真)による学習状況調査

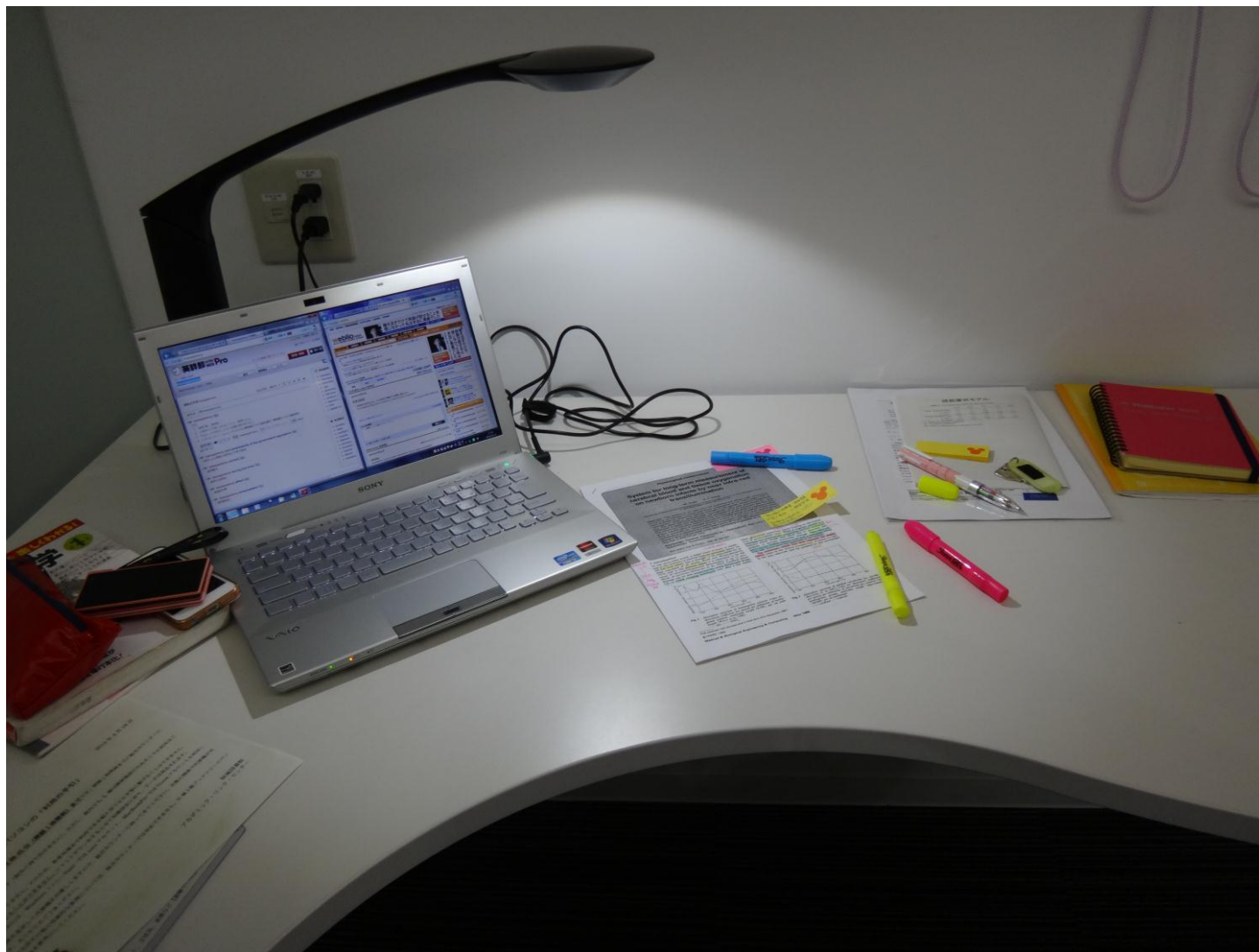
- 目的:館内および館外の「学習行動」の実態を探る
- 対象:学部生・院生
- 方法:
 - 1)学生にデジカメ1台＋地図を貸与(数週間)
 - 館内:入館後30分ごとに「今やっている事」を撮影
 - 館外:「学習」を開始した時点で、指示項目を撮影
(仲間・空間・机上の様子)
 - 2)撮影者と写真・地図を見つつ個人インタビュー
 - どこでどんな資料・機器を使い
どのような学習を、なぜしたのか？





- ①③の調査では分からない「学生個人の動向」が分かる →【質】
- ③の調査で分かった「机・椅子の移動状況や利用パターン」の実例を写真で示せる
- ②の調査でわかった「変化」(例: 資料の使い方や勉強法が変わった)の具体例も写真で示すことができる

学生摄影写真



⑤アクティブ・ラーニング・スペースにおける図書利用 状況調査

- **目的:** ALSにおけるコンテンツの利用状況
(内容・移動先)を探る
- **対象:** 来館者全員
- **方法:** 1) 返却用ブックトラックを新しい学習空間の
N棟2階に2台、3階に1台設置
2) 1日3回収・データ収集



- コンテンツの利用動向を示す、客観的なデータ →【量】
- 「資料と空間の利用パターン」などが分かる (個人の動向は不明)

返却データを用いた図書利用状況調査



めざしたもの

新しい学習空間の整備が学生の学習行動へどのように影響するかを明らかにする

特徴

- 図書館員と教員の協働
- 学習行動を見る
 - ⇒ (図書館サービスではなく) 大学教育における図書館
 - ⇒ 図書館にこだわらない館外の学習空間も見る

図書館が学生を知っている
か・・・

質的・量的調査により根拠を
持って言える

調査・分析の結果

2013年度第5回

アカデミック・リンク・セミナー

2014年3月27日(木) 13:30～16:00

附属図書館I棟1階コンテンツスタジオ

ご清聴ありがとうございました

